



清和高原天文台台長
みやもと ゆきお
宮本幸男さん

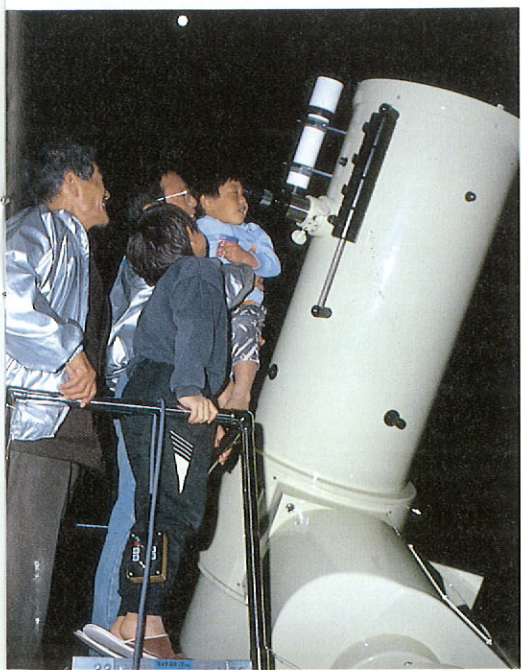
- プロフィール
- 1921年 10月21日熊本市生まれ
 - 1945年 日本大学工学部建築学科卒業
 - 1971年 天体用カメラ「ライトシュミット」を開発
 - 1982年 熊本市博物館嘱託、プラネタリウム運営スタッフとなる。熊本県民天文台建設に当たり、中心的役割を果たす
 - 1983年 熊本県民天文台台長
 - 1992年 アマチュアで天文学に貢献した人に贈られる「チロ賞」を受賞
 - 1993年 清和高原天文台台長

夜空の星をながめ、果てしない宇宙に思いをはせる……。こんな過ごし方が最近、静かなブームとなっています。熊本県民天文台の台長を長い間お努めになった宮本幸男さんは、現在、清和村に移り住み、さらに多くの人々に星空の美しさを紹介しています。柔和な笑顔の宮本さんに、それこそ星のようには輝く若々しい瞳で、星の魅力を語っていただきました。

星を見ると地球のこともわかる。 たまには、夜空を見上げてごらん——。

子供のころから星を眺めてました。星に興味を持ったのは、小学校低学年のころ。私は五人兄弟の末っ子だったんですが、夏の宵とかにみんなで夕涼みしていると、一番上の兄が「あれがサソリ座で、あの明るい星がアンタレス」とか教えてくれるんです。当時は熊本市の花畑町に住んでたんですが、星もよく見えました。幼いころだけに、すっかり記憶に残ったんですね。

り星に詳しい人がいて。山に行ったりテントを張ると後は暇だから（笑）、ギリシャ神話を話してくれるんです。で、「この物語の主人公が、あの星だ」と。ちやうど戦争中だったので、戦争が終わったなら星を見たいなあと思ってましたが、いざ戦争が終わってみると、しばらくは星どころじゃなかったですね。六十歳の転身



宮本さんの説明を聞きながら夜空に見入る家族連れ



春夏秋冬を通じ、熊本で見える1等星16個のうち、8個が冬に集中。冬の夜空はとてもしゃやかです。でも、防寒も忘れずに

て。六十歳と同時にやめ熊本博物館のプラネタリウムのスタッフになりました。天井に投影される星の映像の解説や、そのシナリオ書き、機材の修理と何でもやるんです。宇宙に関する新情報があれば、さっそくアドリブでつけ加えてみたり。おせっかいみたいですが、自分がきれいだなあと思うものを「ちよっと、ちよっと」って感じて他人にも見せたいんですね（笑）。

同じころ、同好の士の集い「熊本天文研究会」が発展した形で、城南町に「熊本県民天文台」をオープンしました。資金的に余裕がなく、たくさんの方々から協力いただいたので、「県民」と冠して無料公開にしたわけです。

よりよい環境で次世代に渡したい。近ごろ、市街地では明かりが氾濫して星が見えにくいといわれますが、やはり一番の原因は大気汚染。空気さえきれいなら星の光もわりと通るんですよ。ここ清和の天文台は標高が七百メートル。空気も澄み、「日本一、星がきれいに見える天文台」のつもりです（笑）。熊本のいいところは、愛好家同士の交流が盛んで情報交換も活発なこと。清和、城南、天草龍ヶ岳のミュージアム

文台と、互いに行き来があるんです。空気がきれいな清和にやってきて、今はもっと多くの人たちに星に目を向けてほしいと思っています。星一つまみり宇宙を見れば、大気をはじめとする地球の現在の状態がわかる。よりよい

自然環境でこの大切な地球を次世代に渡すのが私たちの務めですよ。それに、とにかく星の色って、どんな人工の光よりきれい。下ばかり見てないで、たまには空を見上げてごらんって、よく言うんですよ。



モニターを使って星の話をしてくれる宮本さん